北海道美瑛町の公立学校の児童・生徒への教育支援

石井　雅幸　教授
(家政学部　児童学科)

概要：2022年度包括連携協定を結んだ北海道美瑛町の公立学校の児童・生徒に対して、本学学生と教員による学校支援の取り組みを昨年度試行的に行いました。その成果を踏まえて、今年度から継続的に毎年9月と2月にそれぞれ6名の学生を8日間美瑛町に派遣し、美瑛町内の公立小中学校への教育的支援や美瑛町全体で取り組んでいるイベントへの協力参加を行いました。



図１　最終日に行われた美瑛町教育委員会での学生による成果発表会の様子（2 月）

具体的には、本学の長期休業期間中に、本学の児童教育専攻の学生が美瑛町内の公立学校の学校教育活動に入り、学習支援や学校生活指導上の支援を要する児童･生徒への支援を美瑛町教育委員会並びに本学の児童学科の教員の指導のもとで行っていくものです。9月、2月ともに最終日に行われました美瑛町教育委員会内での学生による成果発表（図1）から以下のような成果が得られました。参加した学生は、美瑛町の規模が、町内の子どもの実態を把握した個に応じた教育支援を行える可能性を知ることができました。また、町全体が町を活性化させるための取り組みに前向きに取り組んでいることを実際に手伝うという体験から知ることができました。学生が、地方の小さな町が存在している意味を知るとともに、地方創生の必要性を強く感じていました。以上の取り組みが、本学の知名度を美瑛町にも高め、将来的には美瑛･富良野･旭川周辺の若者の本学への進学を促すきっかけになったり、都市に住む学生が地方創生の必要性を学んだりするきっかけができることをねらっています。

１　取り組み内容

児童教育専攻の学生6名ずつのべ合計12名が、美瑛町に出かけ、下記のような取り組みを行ってきました。9月と2月の2回の取り組みは、季節の違いだけでなく、訪問した学校の形態が異なります。９月は、町内でも比較的規模が大きい学校に入りました（表1）。

表１　９月の取り組みの活動概要

９月４日（月）：美瑛町教育委員会でのオリエンテーション、その後学校への挨拶
９月５日（火）～９月８日（金）：８時から 15 時は美瑛小学校・美瑛東小学校にて各学校で必要としていることのボランティア活動実施。15 時以降は美瑛中学校に行き、文化祭の準備の手伝い。
９月９日（土）：美瑛町の町全体の魅力を知る活動。
９月 10 日（日）：美瑛町主催のセンチュリーライドのゴール付近での手伝いの実施。
９月 11 日（月）：美瑛町教育委員会での成果発表会。

2 月は、9 月とは異なる小規模校での活動でした。大学近郊の都市部の学校では見られない複式学級の授業に入り支援を行いました（表 2）。

表 2　2 月の取り組みの活動概要

2 月 13 日（火）：美瑛町教育委員会でのオリエンテーション、その後学校へのご挨拶。
2 月 14 日（水）：美馬牛小学校での学校支援活動。　　現地での移動手段はスクールバス利用
2 月 15 日（木）：明徳小学校での学校支援活動。
2 月 16 日（金）：美馬牛中学校での学校支援活動。
2 月 17 日（土）：冬の美瑛の魅力を知る活動と宮様国際スキーマラソンの準備手伝い
2 月 18 日（日）：宮様国際スキーマラソンのゴール付近での手伝いの実施。
2 月 19 日（月）：美沢小学校での授業参観。
2 月 20 日（火）：美瑛町教育委員会での成果発表会。

本取り組みにおいては、2 から 3 名のこれまでに参加した学生の重複参加の形態をとりました。そのことにより、新規参加の学生は、様々な情報を得ることができるとともに、重複参観の学生は、前回と比較して深い考察ができるからです。その結果として、これまで以上の目的達成ができたと言えます。その結果が、本事業の発展的な取り組みに繋がっています。

2　本事業の発展として

今回の取り組みが、新たな事業を生み出しています。その一つが、昨年度に引き続き本学学園祭での美瑛町出展と、その中での本学と美瑛町とのつながりを説明したコーナーを設けたことです。その中で、本事業の美瑛町での取り組みに参加した学生が、学びで得たことを、来場者に説明しました（図 2）。また、参加学生が、春のさくらまつりの美瑛町出店の手伝いを行いました。



図 2　学園祭にて美瑛の教育を語る学生
（令和 4 年度の学園祭の様子写真）

令和 5 年度は、美瑛町の子供たちが、東京を訪問し、東京の子供たちとともに、東御苑での自然観察、史跡めぐりを行いました。さらに、副学長の小川　浩先生による美瑛町民への美瑛町の福祉・教育施策の価値をお話いただく機会を美瑛町がつくってくださいました。

これらの取り組みの中で、美瑛町との関係が深まるだけでなく、学生の地方創生の意識や少人数体制の中での徹底した個別支援の教育の在り方への意識が高まってきています。最後に、美瑛町の取り組みにかかわった令和 4 年度の卒業生が美瑛町内の公立小学校教員に赴任し、美瑛町内の少人数指導に関わる仕事を始めています。また、美瑛町内の唯一の高等学校である北海道立美瑛高等学校を指定校の一つに指定することができました。こうした取り組みを行う中で、少しずつ都市部にある女子大学の学生が地方創生の必要性を感じて自らのキャリアにそのことを反映できるような場が複数できるきっかけになればと考えています。

構成員：児童学科教員：石井　雅幸、樺山　敏郎、厚東　芳樹、大谷　洋貴、澤井　陽介
美瑛町：美瑛町教育委員会；梶原　祐治、目良　久美、三浦　誠
美瑛町まちづくり推進課；観音　太郎、美瑛町総務課；新村　猛
本事業に参加した家政学部児童学科児童教育専攻の 1 年（1 名），2 年（2 名），3 年（7 名）の学生